

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年10月28日現在

今月の重点活動

■トマト 海津トマト部会において平成26年産の栄養診断を開始

農業普及課では、硝酸イオン濃度を定期的に測定し、診断値を参考にしたタイムリーな肥培管理を支援し始めて6年が経過しており、生産者に取り組みが根付いてきている。

昨年は、新たにリン酸やカリの測定も実施し、肥料の三要素に関して、栽培期間を通した変動を把握することができた。今年も、リン酸施用苗実証区による効果確認、葉先枯れ軽減対策の普及を図っており、栄養診断を通してその効果を実証し、研修会等で活用していく予定である。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 定植が終了

8月下旬からブロッコリー定植が始まり、10月上旬に終了した。大雨、台風の影響により、畝立て・定植作業が予定よりも遅れたため、今後の気象によっては収穫時期が2月以降となることが懸念される。今年度の西濃管内での作付面積は約20haとなり、昨年と比べ約4ha減少した。JAにしみのブロッコリー生産協議会の部会ごとに、省力栽培推進として全自動移植機のデモンストレーションが行われた。



【全自動移植機のデモ】

■各試験ほ場を設置

活力ある新産地づくり支援事業で、花蕾の黄化を防ぐためのブロッコリー肥料改善試験、1～2月収穫に向けた新品種試験、安定した育苗のための固化培地試験、高温対策のための白黒マルチ試験について、西濃管内のブロッコリー農家の協力を得て試験ほ場を設置した。生育調査等を行い、今後の研修会等で栽培改善に結び付けていく。



【白黒マルチ試験ほ場】

売れる農畜産物づくり

■大豆 適期収穫に向けて

平成25年産大豆は、6月29日から播種が始まったが、7月下旬から間断なく降雨があって作業が遅れ、8月12日まで終了が延びることとなった。その影響から、7月下旬以降の播種では、出芽と初期生育の不良を招くとともに、除草剤の効果が低下したことから、雑草が繁茂するほ場が多く見られた。

また、9月上旬、中旬2回の集中豪雨により、着莢不良や倒伏ほ場が散見されるとともに、10月中旬から葉の黄化が始まっているが、半月を超える干ばつが2回あったことも影響してか、葉の枯れ上がりが目立っており、収量・品質の低下が懸念される。

こうした状況にあるからこそ、適期・適切な収穫の実施が求められており、今後はJAとの連携のもと、ほ場巡回による情報提供や共同乾燥施設稼働会議を踏まえた地域ごとの利用計画の作成を通し、支援することとしている。

■きゅうり 平成26年産目揃え会、各種研修会の開催

10月4日に、海津胡瓜部会の平成26年産きゅうり目揃え会が開催され、農業普及課から、これまでの生育状況と栽培記帳票の記帳方法及び農薬の適正使用について説明した。

10月8日には、天敵（スワルスキーカブリダニ）利用巡回研修会を開催し、天敵の定着状況やミナミキイロアザミウマの寄生状況の調査結果をもとに、今後の防除計画等の検討を行った。現在のところは、大部分の圃場で、キュウリ黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザ

ミウマの発生は少なく抑えられている。また、10月10日に、海津胡瓜部会抑制裁培の巡回研究会が開催され、黄化えそ病対策や今後の栽培管理等の指導を行った。

■いちご 栽培研修会の開催

海津いちご部会は9月26日、養老町いちご連絡協議会は10月7日、平田町園芸組合いちご部会は10月10日に、それぞれ栽培研修会が開催された。

農業普及課から、頂果房の花芽分化が早かったことを受けて、マルチ被覆を適期に行うことを説明した。また、腋果房の花芽分化日は、濃姫で10月18日からと、頂果房が早い割に平年並みとなったため、頂果房と腋果房との間に中休みが若干発生する可能性があり、ビニール被覆を急がず早急な株づくりをしないよう呼びかけた。

■春菊 病虫害防除指導及び塩ビ管トラップによる害虫対策

ハウスへの定植は9月下旬から順次行われていたが、10月中旬には作業がほぼ終了し、10月14日に初出荷が行われ、10月25日に目揃会が開催された。

育苗時からハスモンヨトウの被害が、10月上旬から炭そ病が発生したため、防除指導を行った。また、春菊は登録農薬が少ないため、病虫害防除に苦慮しており、昨年ヤサイゾウムシ被害が発生したハウスに塩ビ管を用いたトラップを設置して、被害軽減効果を実証することとしている。



【塩ビ管トラップ】

戦略的な流通・販売

■柿・みかん 直売所出荷者への果樹栽培講習会の開催

9月24日に、JAにしみのファーマーズマーケット海津店・南濃店、9月25日に月見の里南濃農産物直売所出荷者協議会の果樹栽培講習会が開催された。

農業普及課から、売れる柿づくりをテーマに、南濃の柿は他の産地より小玉で着色も遅れがちのため、剪定方法の改良や間伐で大玉柿づくりをすること、太秋、早秋柿など、富有柿より早く出荷できる新品種の導入について説明した。

また、隔年結果を減らし、うまいミカンを生産するため、間伐や弱剪定、摘果を慣行より遅らせる後期重点摘果を行うことについて、最近問題になっている、浮皮防止方法や、かいよう病対策についても説明した。



【果樹栽培講習会の様子】

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 柿園に鳥害対策の実証ほ設置

10月17日に、養老町果樹振興会役員、JAにしみの職員の協力、農政部農村振興課鳥獣害担当職員の指導のもと、養老町内に、カラス等による食害防除実証ほを設置した。「くぐれんテグス君」と称し、サイドに防鳥ネット、天井には耐候性テグスを1m間隔で張ったものである。

今後は、食害防止効果について、センサーカメラで園に飛来するカラス等の忌避行為の確認を行う。



【柿園での資材設置作業】

直売所出荷者に集落ぐるみの鳥獣害対策啓発

9月24日、25日に、海津市南濃町で開催された、直売所出荷者を対象とする果樹栽培講習会を活用し、集落ぐるみの鳥獣害対策の実施について啓発した。

当地では、隣県や隣接する市町で、集落ぐるみの獣害防護柵を設置し始めたことから追い込まれる形となり、今後もミカン園やカキ園で、猿、猪、鹿の被害拡大が予想されており、集落ぐるみで獣害防護柵を設置する必要性が高まっている。